

未来の
日本を
創る

農業
担い人

THE FUTURE of
JAPAN CREATE

PROFILE

みわ かいと
三輪 海翔 さん

MIWA KAITO

26歳

愛西市給父町



盤石な経営を目指して 努力を重ねる若き生産者

愛西市給父町で、水耕栽培によるサンチュを中心にミツバも栽培する三輪海翔さんは、「三輪農園」の社員として家族と従業員を含む16名で約35aの圃場を管理しながら、主に共撰出荷を行っています。農園の経営をより良くしたいという思いや祖母の体調不良をきっかけに、会社員から農業の道へ転身しました。現在は、通年で野菜の栽培に適した環境を整えながら、管理するハウスの稼働率を100%に近づけて維持できるように、計画的な作付けと出荷を心がけて農業に勤しんでいます。

農業に携わる中では、サンチュなどの栽培技術はもちろんのこと、資材管理や安定して収益を上げられる経営体制づくり、さらに的確な指示を行えるようになるための指導力などに対して課題を感じることがあります。そうした課題の改善に向けて、三輪さんは「家族に相談してみたり、今年から加入した青年部の方々のアドバイスを参考にしていきたいです」と前向きに語ります。今年は高温や強風の影響により、サンチュにアブラムシが多く発生し、農薬の散布による対策が必要であったり、夏場は冬場と比較してサンチュやミツバの成長速度がとても早く収穫が追い付かないことがあるなど、様々な苦労もあります。その一方で、「努力して栽培や出荷をすることで、収益という形で結果に表れるところにやりがいを感じます」と思いを語ります。

資材や肥料価格の高騰が続く情勢の中でも、安定した経営を目指す三輪さん。将来的には、人脈を広げながら多くの知識と経験を身に付け、お父さんから農園の経営を安心して引き継いでもらえるように、日々努力を重ねています。

最後に「サンチュは、様々な美味しい食べ方がありますので、スーパードなどで見かけた際はぜひとも手に取っていただき、味わってもらえると嬉しいです」とメッセージをいただきました。